

水道料金の体系について



長野市上下水道局イメージキャラクター
「みずなちゃん」

長野市上下水道局 営業課

1 水道料金の基本的な考え方

① 独立採算（地方公営企業法第17条の2）

原則として、地方公営企業の経費は、地方公営企業の経営に伴う収入をもって充てなければならない

② 料金の決定（地方公営企業法第21条）

料金は、公正妥当なものでなければならず、かつ、能率的な経営の下における適正な原価を基礎とし、地方公営企業の健全な運営を確保することができなければならない

③ 料金設定の考え方

料金収入の総額＝経費の総額（総括原価方式）

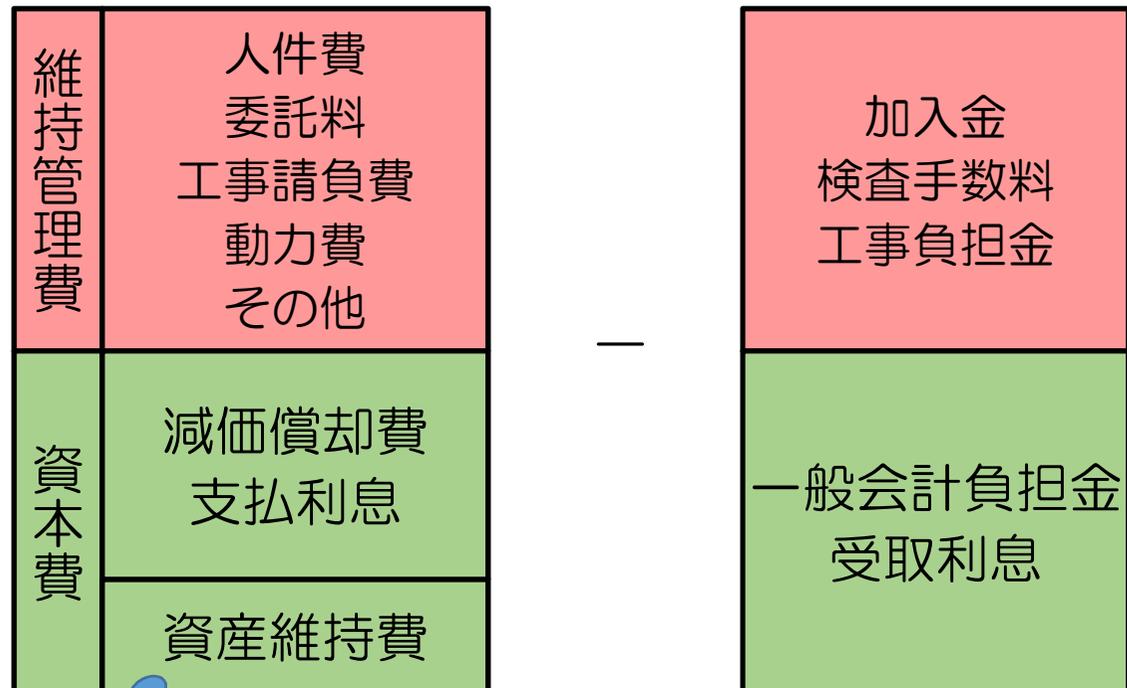
2 総括原価方式

総括原価とは？

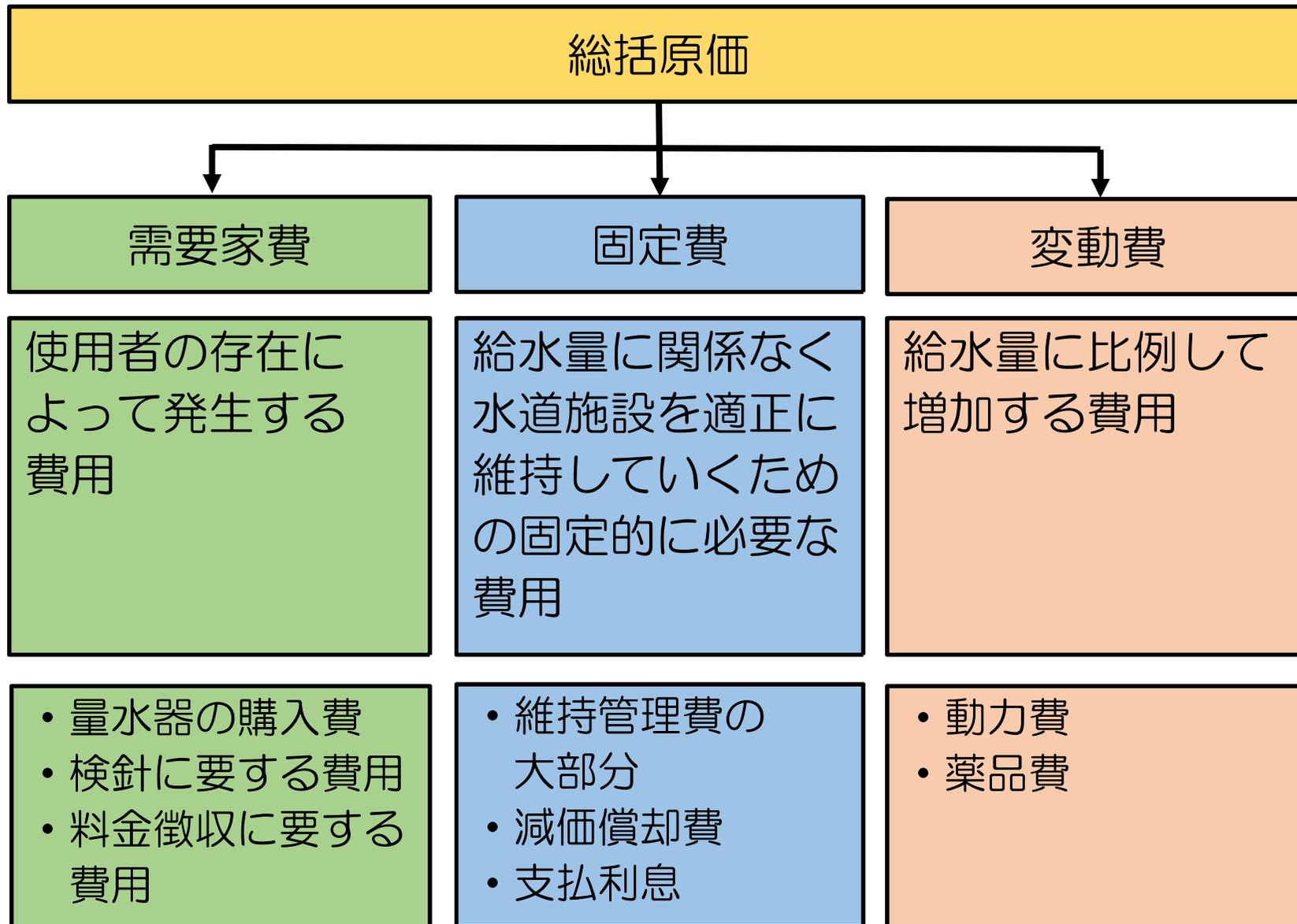


資産維持費

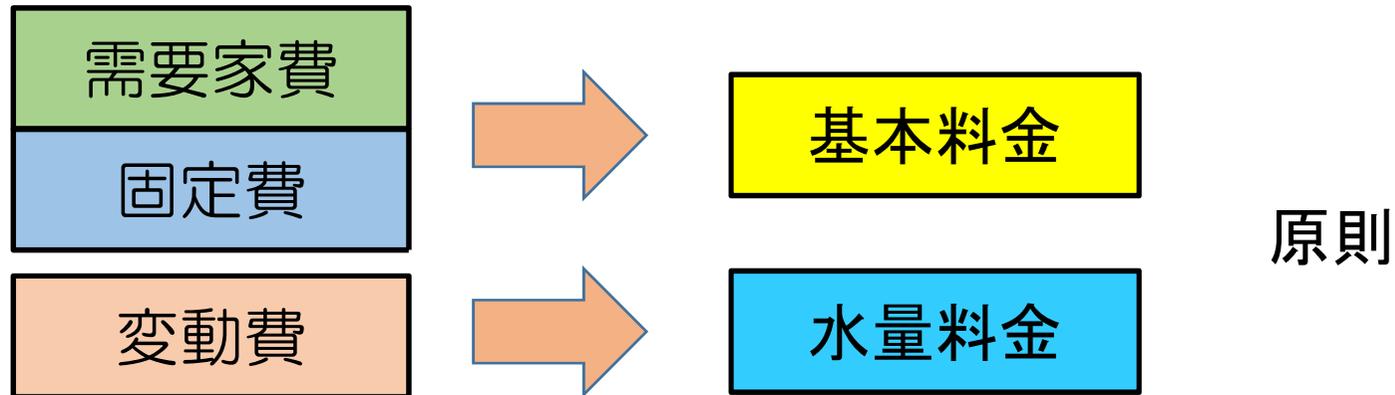
- ・施設更新時の物価上昇や高規格化に伴う価格上昇を補うための費用
- ・対象資産の3%(資産維持率)を標準とするが各事業者が決定する(本市は0.5%)



3 総括原価の分解



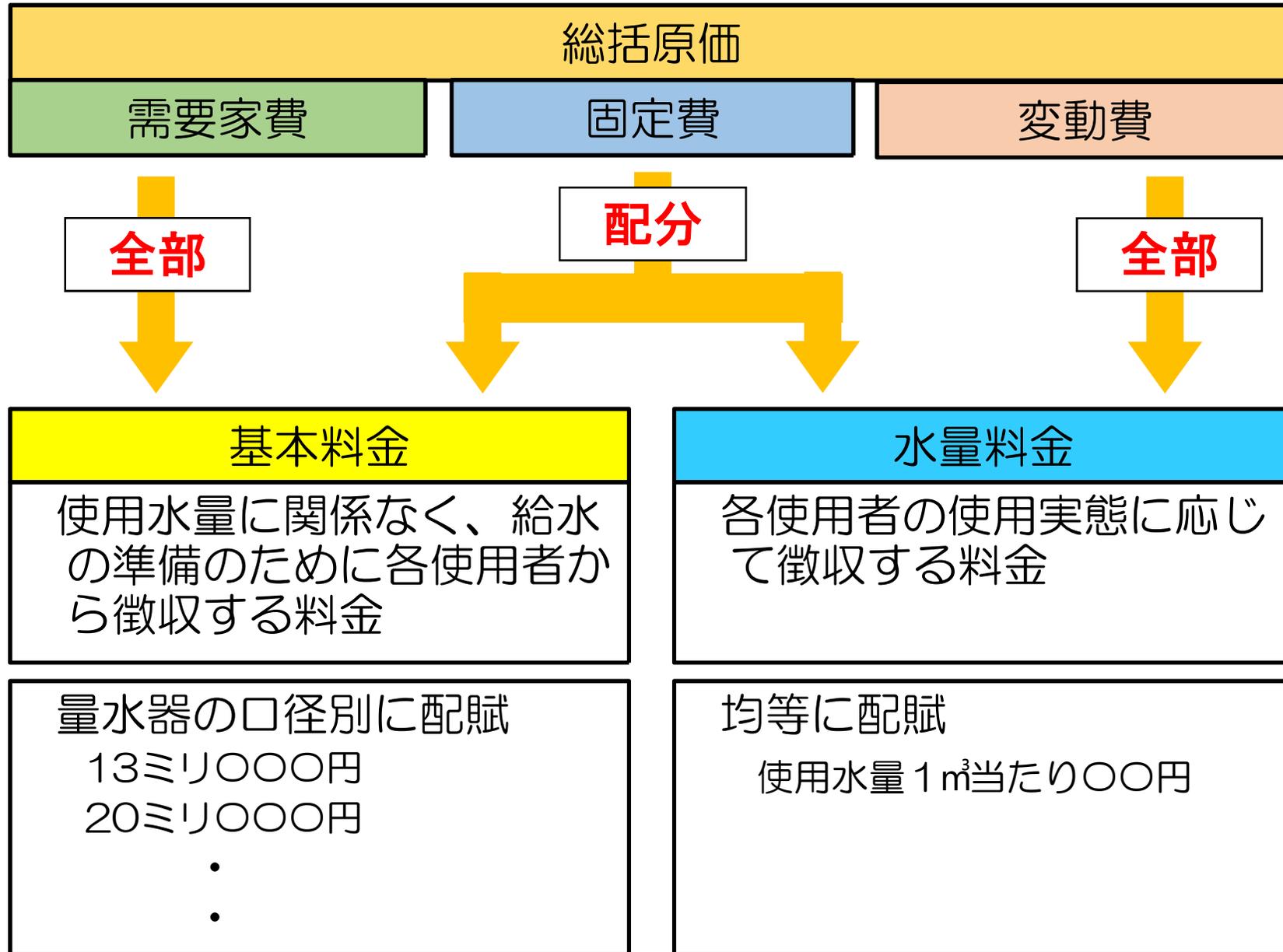
4 基本料金と水量料金の構成割合



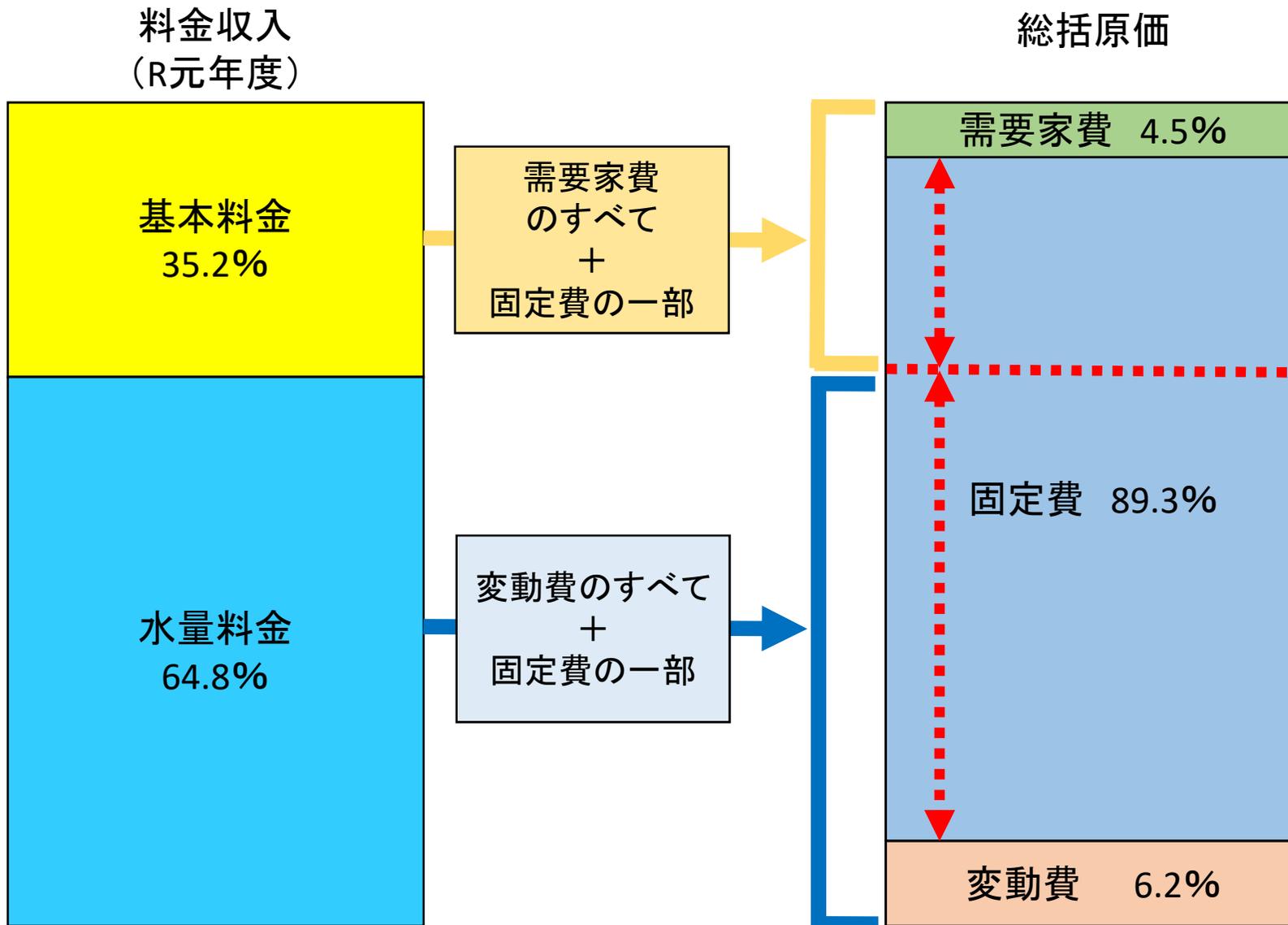
水道事業における費用構成は、固定費が大部分を占めており、原則どおり実施すると**基本料金が著しく高額**となり非現実的

固定費の一部を水量料金で回収

5 総括原価の配分



6 長野市の料金収入と総括原価構成



7 長野市の水道料金体系

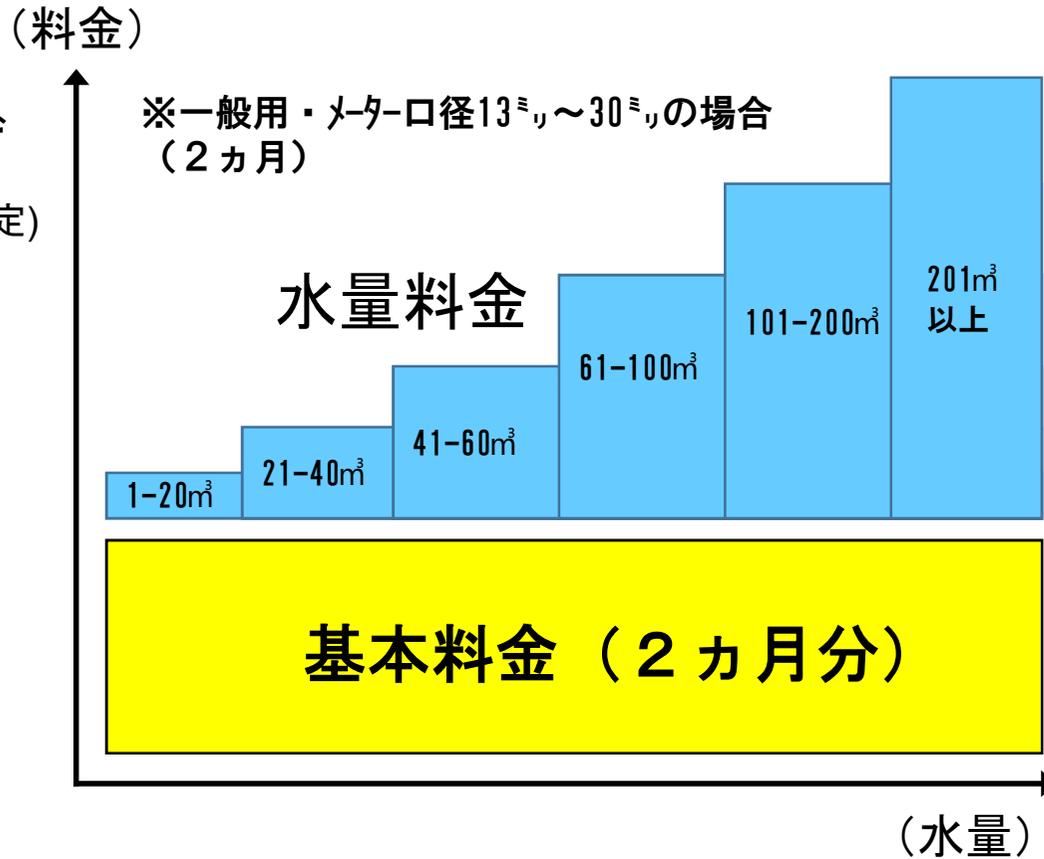
基本料金

使用の有無に関わらず
徴収する料金 (口径ごとに設定)

水量料金

使用水量に応じて徴収
する料金

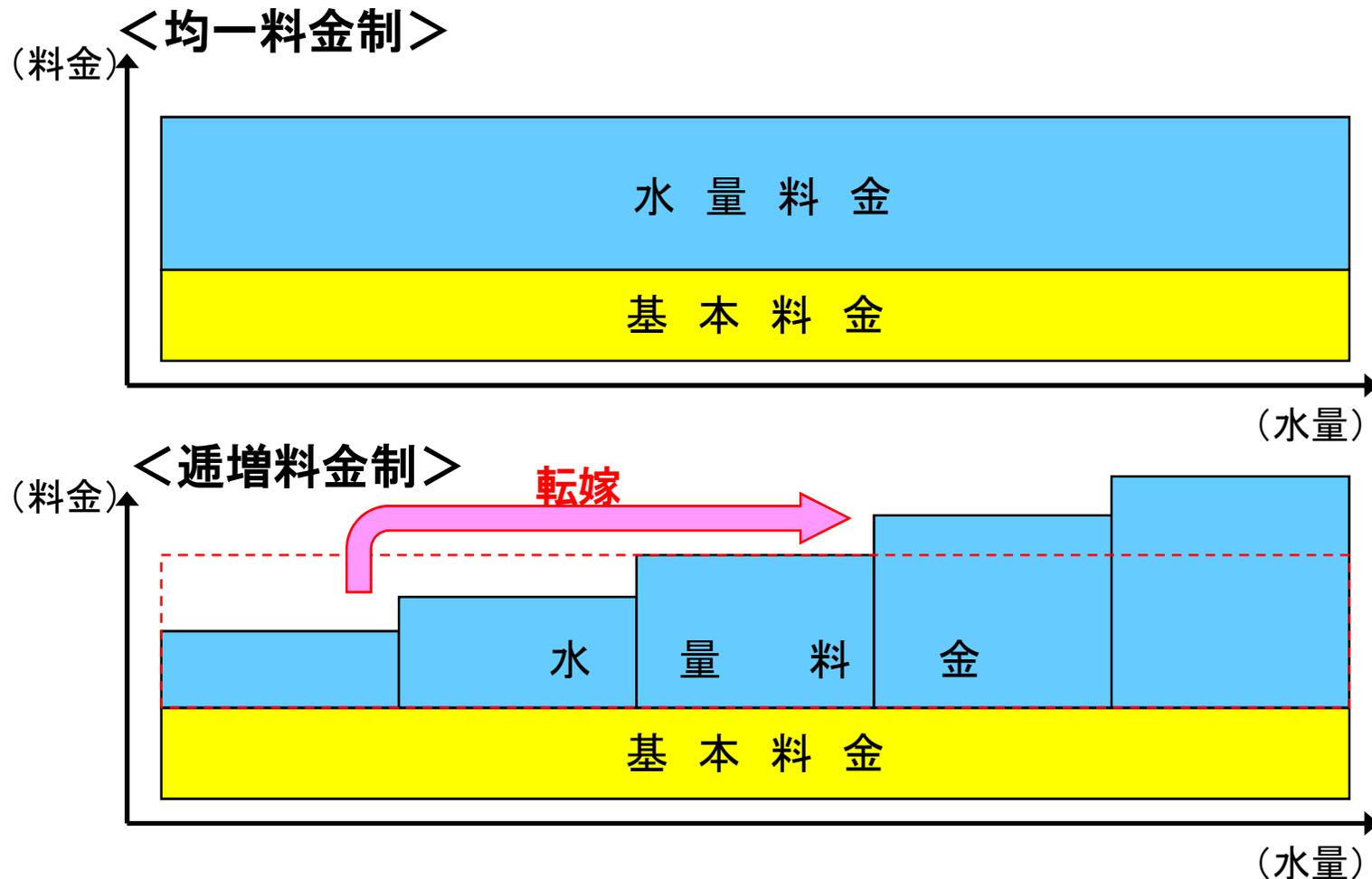
使用水量が増加するほど
単価が高くなる (逡増制)



水道料金 = 基本料金 + 水量料金 (二部料金制)

逦増制料金とは？

水需要の拡大に伴い、水源確保や施設の拡張が必要となり、大口需要者に相応の受益者負担として水道料金を高くすることにより、一般家庭の料金を安くし、水の合理的な利用を促すもので、水を使えば使うほど高くなる料金体系



8 逡増料金制

(1) 採用の背景

- ・ 昭和47年から逡増制料金体系を採用
- ・ 水需要の増加 → 水源の確保、施設の拡張が重要課題
⇒ 節水型の料金体系である逡増制水量料金を導入し、大口需要者に対して相応の受益者負担を求めた

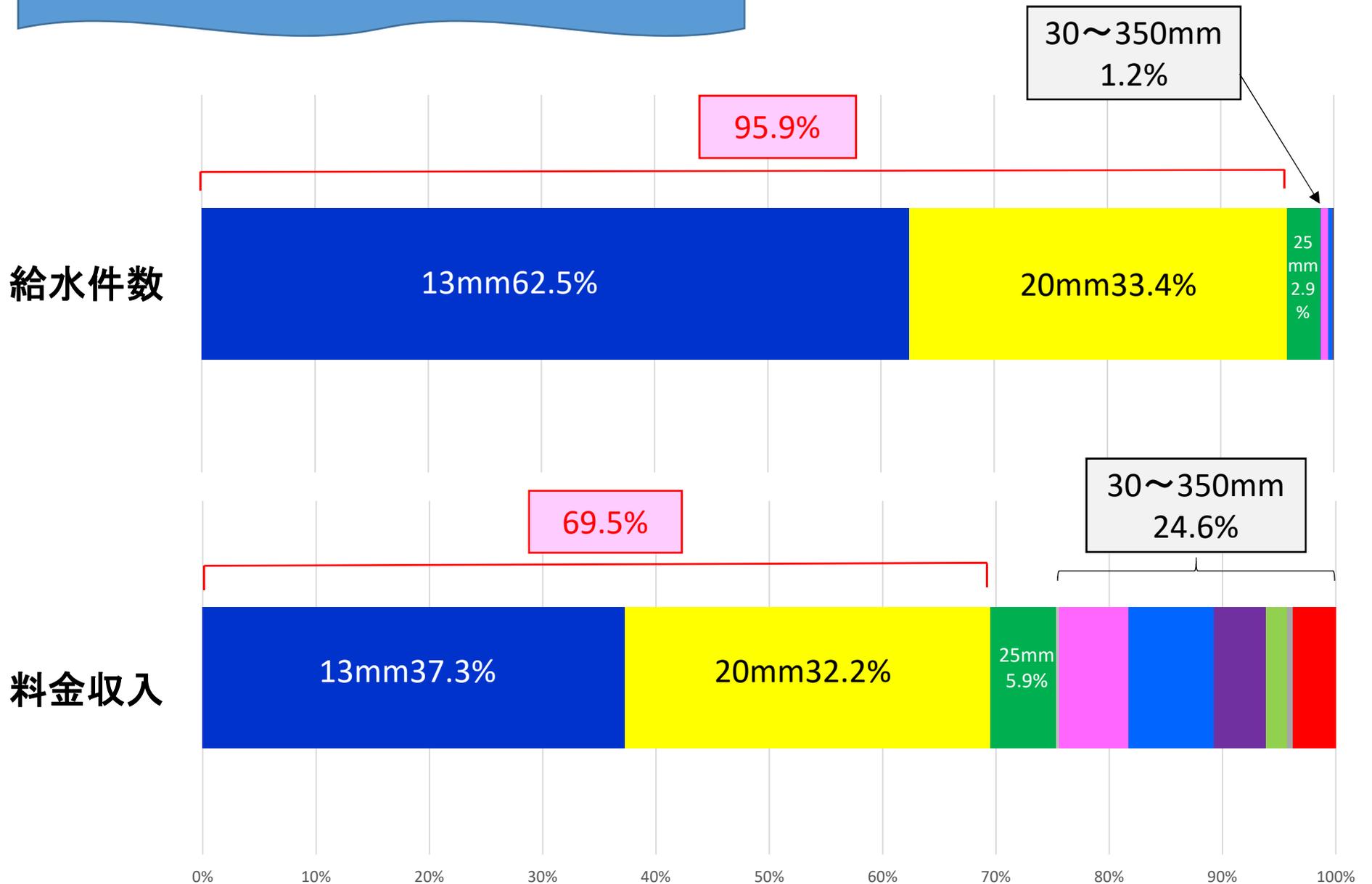
(2) 課題

- ・ 逡増制の導入時と状況が大きく変化
- ・ 大口使用者にとって不公平感 → 地下水への転換
- ・ 市場原理と逆の料金体系（通常は購入量と販売単価が逆に比例）

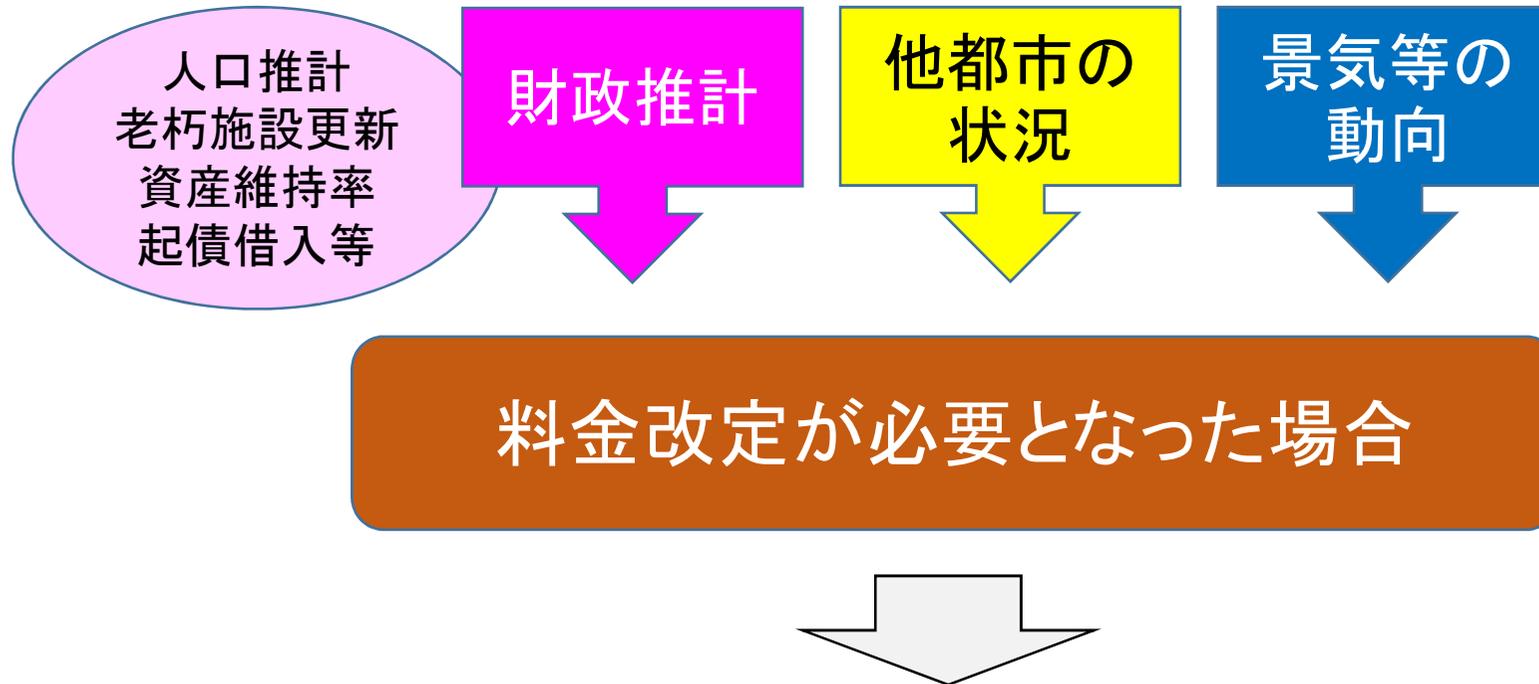


平成25年の料金改定において「使用水量が多く料金負担が大きい事業者が安定して事業を行えるよう事業者に対して配慮する必要がある」との答申を受けて逡増度を緩和

給水件数と料金収入の比較



9 料金の見直しについて



基本料金の割合、逓増制などを考慮して、将来にわたり安定した水道経営が持続できるように見直しを図る